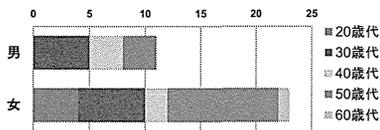
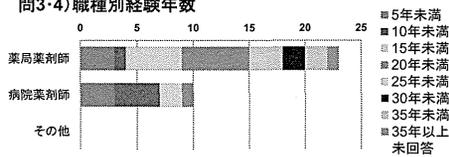


◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ①

問1-2) 年齢性別

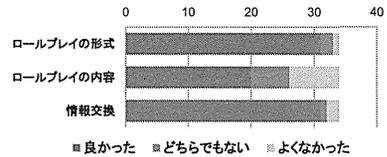


問3-4) 職種別経験年数

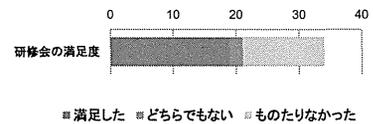


◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ②

問5-1・2・3) 研修会の意見

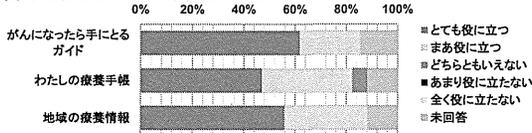


問5-4) 研修会の意見

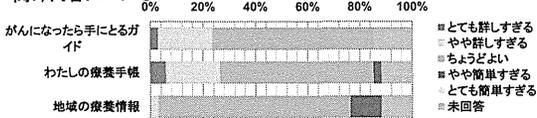


◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ③

問6) 患者家族にとって役に立ったか



問7) 内容について



◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ④

自由意見-1

問5) - 1) ロールプレイの形式について

- ・相談者、相談される薬剤師、観察者のそれぞれになれたのでよかった。
- ・メンバーの距離がすぐ縮まった。
- ・時間が短すぎて、話が最後までいかなかった。

問5) - 2) ロールプレイの内容

- ・これまで予想していなかった内容があり、勉強になった。
- ・相談内容が細かく設定されていて良かった。
- ・薬剤師としての相談内容とかなりかけはなれていた。

問5) - 3) 情報交換について

- ・いろいろな職種の人が参加していたのが良かった。
- ・ふだん交流の少ない薬局の方と知り合いになれ、情報をえられた。
- ・ふだん話せないようなざっくばらんな話ができる。
- ・現状の問題点について、多少議論できてよかったです。

◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ⑤

自由意見-2

問5) - 4) 研修会の満足度

- ・時間が不十分。1回で満足できる様なものでもないと思う。
- ・内容的に重要なものだと思います。このワークを1日かけて実施できるとい

問5) - 5) 研修会に関する意見

- ・継続を望む。1回で終わるなら全く意味がないと思う。
- ・知識の差を感じた。知らないことが分かったので良かったと思う
- ・もっとそれぞれの地域でやって頂ければと思います。

問5) - 6) 今後、薬剤師として希望する研修

- ・今回のような参加型の研修を望む。ただ座って聴いてシールをもらう様な研修は必要ない!!講演終了後にテストなりレポートを提出させる。
- ・看護師・ケアマネージャー等の他職種を交えたグループ研修を受けた
- ・Drがどのように処方するのか処方意図がわかる機会があればいいと思います。

◇ 薬局における がん患者・家族支援のための研修会 ⑥

自由意見-3

問9) 冊子に加えた方がよいと思う情報

- ・静岡のよろず相談薬局のように、配布資料をつくって薬局に置きたいと思いました。
- ・相談場所の窓口と併せて薬局の研修を入れてもらえるとうい。
- ・薬の管理に困った時に薬剤師に相談できることを入れてほしい。
- ・健診などの必要性について一言のついているとういかと思っています。

問11) 「地域の療養情報」に取り入れて欲しいもの

- ・在宅を実際に行っている薬局と、いつでも麻薬の調剤ができる薬局の情報をのせてほしいです。
- ・こういうときは? という実際のフローチャートみたいなものを使ってみてはどうか?
- ・配置場所について色々な医療機関に置いて、患者本人だけでなく家族も手に取りやすくないか?
- ・在宅での療養生活と、往診してくれる病院の情報提供

「あなたとあなたの家族のためのがんの療養情報」



この冊子は、がん療養を支援するホームページ「がん療養情報」のコンテンツから厳選された内容をまとめた冊子です。

「療養情報」の3本柱

がん療養情報とは、がん患者さんやご家族の皆さまが、

この冊子を通してご活用ください。

がん療養生活のヒント、がん療養生活の悩み、がん療養生活の相談先



がんになったら何をしたらいいか
がんになったら何をしたらいいか
がんになったら何をしたらいいか



がんになったら何をしたらいいか
がんになったら何をしたらいいか
がんになったら何をしたらいいか

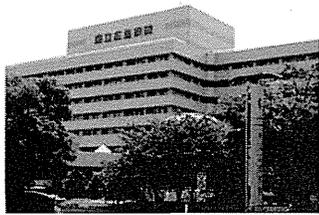
【療養情報は、一冊読み放題です。】
●がん療養情報紙の発行時には見放題があります。
またインターネットから閲覧することもできます。

がん療養情報紙の発行先 <http://ganjoho.jp/>



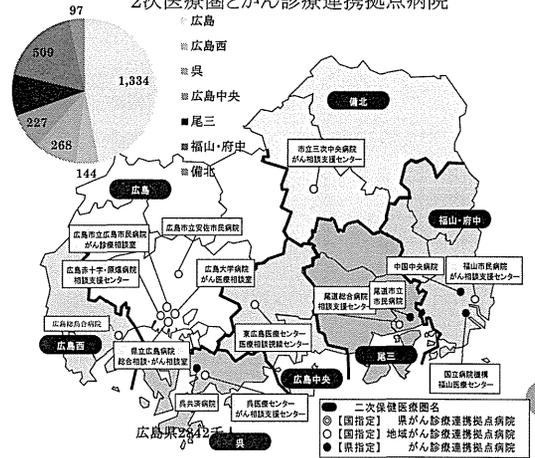
厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」(がん臨床地域必携班)
「地域の医療情報の提供に向けて2012」

広島県における地域の医療情報作成の取り組みとその後の展開



県立広島病院 臨床腫瘍科
篠崎 勝則

2次医療圏とがん診療連携拠点病院



私の履歴書

- 平成14年(1999年) 広島大学医学部医学科 卒業
- 平成1年(1989年) 広島大学医学部附属病院 医員(研修医)
- 平成2年(1990年) 北九州総合病院 外科医師
- 平成5年(1993年) 広島大学医学部附属病院 医員
- 平成11年(1999年) 広島大学大学院医学系研究科外科専攻 修了
- 平成12年(2000年) アメリカ・ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学 Department of Gene Therapy ポストドク研究員
- 平成14年(2002年) アメリカ・ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学 Department of Gene Therapy Senior Scientist
- 平成16年(2004年) アメリカ・ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学 Department of Gene Therapy Assistant Professor
- 平成17年(2005年) 広島大学医学部附属病院消化器診療科消化器外科・医員
- 平成17年(2005年) 広島大学医学部附属病院消化器診療科消化器外科・助手
- 平成18年(2006年) 県立広島病院第一一般外科・医長
- 平成18年(2006年) 国立がんセンター中央病院乳腺・腫瘍内科、消化器内科 研修
- 平成18年(2006年) 県立広島病院臨床腫瘍科・部長
- 平成20年(2008年) 県立広島病院臨床腫瘍科・主任部長
- 平成23年(2011年) JA尾道総合病院化学療法センター・非常勤医師
- 平成24年(2012年) 広島大学医学部臨床教授(至現在)

2006年当時、私の思っていたこと

大学病院では、実地医療面ではなく、研究・外部資金獲得で評価される傾向にあり、そのためか研究面では基礎研究に比較して臨床研究は疎かにされがちである。

国立がんセンター中央病院(当時)の研修で、がん医療の質の向上のための様々な施策や臨床研究を知り、このような研究が現場の医療の質の向上にはより重要だと痛感し、是非広島県でも展開していくことが重要だと痛感した。

臨床腫瘍科開設式 平成18(2006)年7月20日



読売新聞2006年7月21日
広島地方版

広島県がん対策推進計画

5 情報提供・相談支援

① がんに関する情報提供
 ② 患者・家族等口頭相談体制の整備

③ 計画の進捗状況

項目	計画策定時	進捗	目標(2017)
がん相談支援センターの設置	2006年	2006年	2006年
がん相談支援センターの整備	2006年	2006年	2006年
がん相談支援センターの整備	2006年	2006年	2006年

がんに関する情報提供
 ○「広島がんネット」の開設(2006)
 県は、がんに関する情報を統合的に提供することを目的として「がん情報ネットワーク」を構築することを決定しました。

がん相談支援センターの整備
 がん相談支援センターは、がん患者や家族の悩みを解決するための相談窓口として、がん診療連携拠点病院等に設置されています。

1 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

「広島県がん対策推進計画」に基づく県のがん対策の各種取組や、その成果に関するがん患者・家族等の意向を把握する。

(2) 調査期間

平成21年8月10日(月)～平成21年9月11日(金)

(3) 調査対象者

県のがん情報サポートサイト「広島がんネット」に掲載するがん患者団体15団体、及び広島県がん対策推進協議会委員が所属するがん患者団体(1団体)の計16団体

(4) 調査方法

県内16団体の代表者宛にアンケート調査票及び回答票を郵送する方式で実施

(5) 結果の概要

回答総数 274件

広島県がん対策推進計画アクションプラン 資料より抜粋

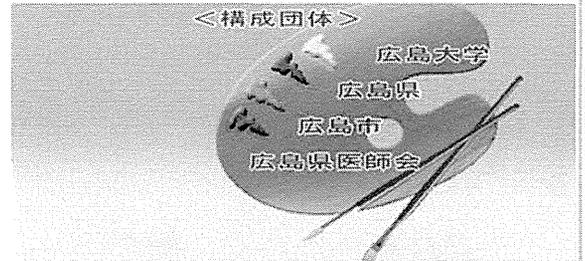
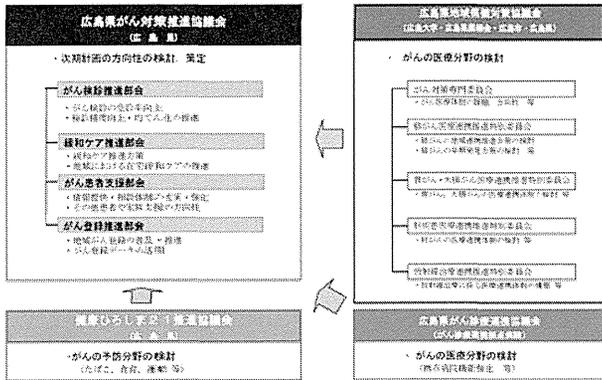
(問11) 県では、平成21年4月にがん情報サポートサイト「広島がんネット」を開設 (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/gan-net/>) し、県内のがんに関するイベント情報や拠点病院の診療情報等をホームページで公表していますが、がん患者・家族の方が必要とする情報が適切に掲載されていると思いますか？

問11 県のがん情報ホームページの掲載情報について



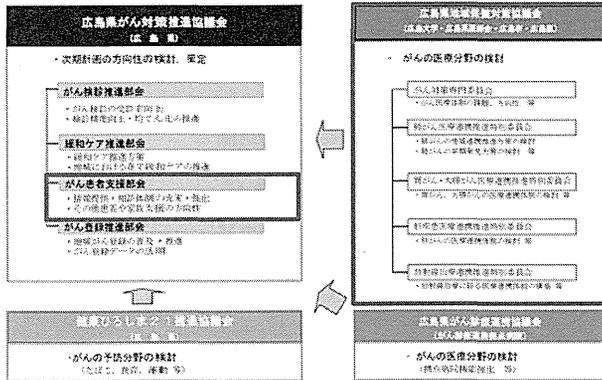
「よく分からない」という回答が全体の6割以上となっており、「掲載されている」、あるいは「ある程度掲載されている」との回答は、全体の2割(19%)にとどまりました。「よく分からない」理由としては、「ホームページが使える環境にない」、「高齢者には難しい」、「新聞等で知る位で、よく広報されてない」といった意見が多数を占めました。「広島がんネット」は、幅広いがん情報を入力するための手段として、今後も掲載情報の充実や、より一層の広報が求められています。

2012年度 広島県がん対策推進計画「検討体制」



広島県地域保健対策協議会(地対協)とは・・・県民の健康保持増進に寄与する目的で設置された広島県地域保健対策協議会は、広島大学・広島県・広島市・広島県医師会の四者で構成され、目的ごとに設置された委員会が、保健・医療・福祉に関する事項の調査・研究及び協議等を行っています。その調査研究結果をもって具体的な提言を行い、行政等の施策に反映させることを目的としています。

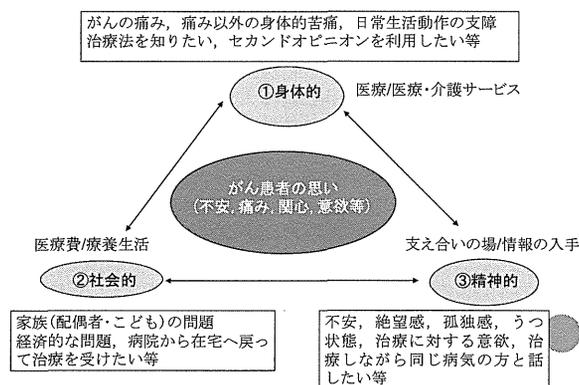
2012年度 広島県がん対策推進計画「検討体制」



平成22年度がん患者支援部会名簿

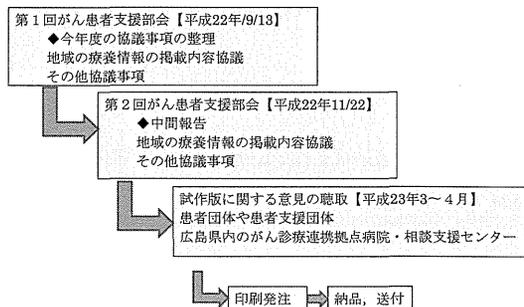
氏名	所属及び役職等	備考	
荒木 康之	社団法人広島県医師会 常任理事		
岡崎 仁史	広島国際大学医療福祉学部長	部会長	
影本 正之	氏名	所属及び役職等	
高野 亨	篠崎 勝則	県立広島病院臨床腫瘍科主任部長	オブザーバー
佐伯 俊成			
佐々木 佐久子			
津山 順子	【事務局】		
原田 仁美	氏名	所属及び役職	
松岡 久美子	宇津宮 仁志	健康福祉局保健医療部医療政策課長	
山内 雅弥	新宅 郁子	健康福祉局保健医療部医療政策課主査	
	松浦 修一	健康福祉局保健医療部医療政策課専門員	
	尾島 佳樹	健康福祉局保健医療部医療政策課主任主事	
	武田 直也	健康福祉局保健医療部がん対策プロジェクト担当課長	

患者必携「地域の療養情報」の全体構成について



広島県・地域の療養情報サポートブックの作製

- 予算額:1,170千円
- 作成部数:10,000部
- 配布方法:各がん診療連携拠点病院の相談支援センター等を通じて患者に配布するとともに、「広島がんネット」への掲載。



がん患者さんのための地域の療養情報サポートブック 広島県版



がん患者さんのための地域の療養情報サポートブック 広島県版

こんなときに
相談支援センターを活用してください

- ✓がんについて詳しく知りたいとき
- ✓がんの治療法について悩んでいるとき
- ✓治療費のことや介護について悩んでいるとき
- ✓何かしらの悩みを感じているとき
- ✓生活が経済的なことで大変なとき
- ✓相談のことも相談してみよう

広島がんネットをご活用ください

広島がんネットとは、がんに関する幅広い情報を提供するホームページとして、がん患者さんやご家族の方々に活用されています。がんについて知りたい、悩んでいる方は、ぜひ広島がんネットも活用してください。

◆広島がんネットのトップページ

広島がんネット: <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/csc/>

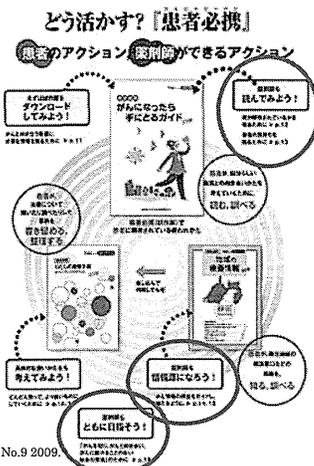
がんの悩み相談
がんの不安解消
がんの経済的支援
がんの専門医とつながるがんの診療情報
がんがわかるがん患者支援センター

◆がん情報トレンドコール
受付時間: 平日 11:00~16:00
電話番号: 082-247-0000
専用ダイヤル: 080-080-0560(携帯)

平成23年度の展開

薬剤師による「患者必携」ならびに「地域の療養情報サポートブック」の有用性の評価と薬薬連携の推進

- 概念
- 患者必携は、
- がん患者や家族に寄り添い、
 - ともに病気に向かい合い、
 - 適切な支援を展開するための、
 - 観点・情報共有のための情報ハブ

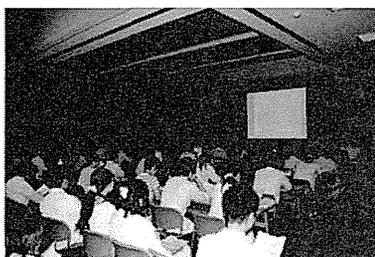


PharmaTribune vol.1 No.9 2009.

テーマ: 外来化学療法と薬薬連携

県立広島病院がん医療従事者研修会

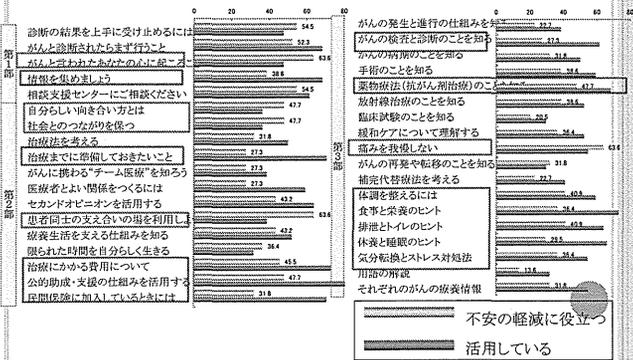
2011.7.12 県立広島病院大講堂



- 参加者 計135名(うち院外84)
- 薬剤師 93名(うち院外82)
 - 医師 22名(うち院外1)
 - 看護師 10名(すべて院内)
 - 事務職等10名(うち院外1)

薬剤師調査(院内+連携薬局44)@広島県

- ・患者の情報ニーズを実感している
- ・抗がん剤に限らず、費用や療養に関する情報まで幅広い情報提供ニーズを喚起
- ・情報共有の場、ツール活用の提案



がん医療のあり方・方向性

- 2006年 がん対策基本法
- 2007年 第一次がん対策基本計画
- 2012年 第二次がん対策基本計画

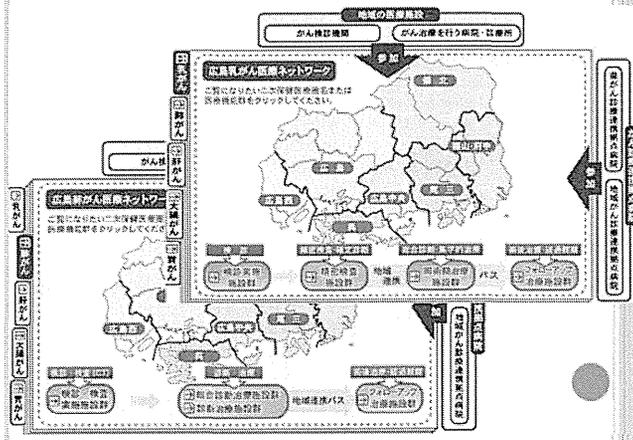
現時点での方向性

「がん患者を含む国民が、がんを知り、がん向き合い、がんに向けることのない社会」を目指す

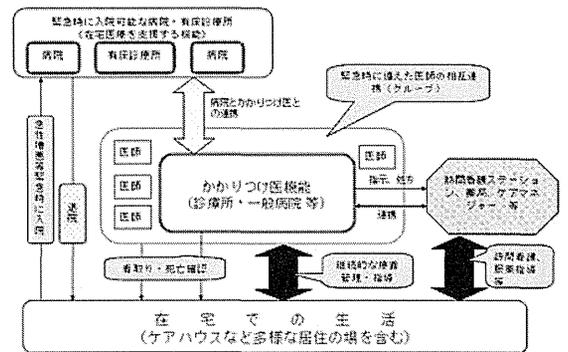
全体目標

1. がんによる死亡率の減少
2. 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持・向上
3. がんになっても安心して暮らせる社会の構築

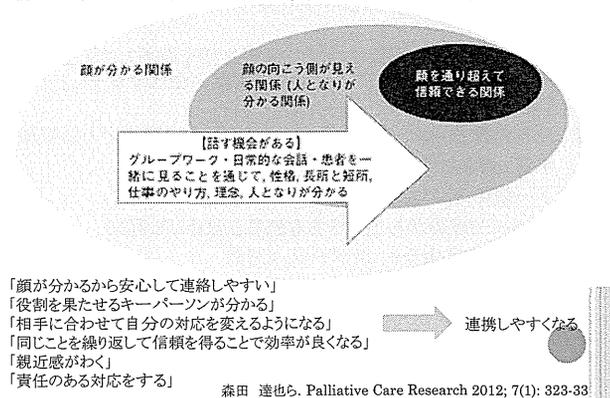
広島県のがん医療ネットワークの構築



在宅医療(終末期ケアを含む)の連携のイメージ



顔の見える関係と連携との概念的枠組み



平成24年度第2回 県立広島病院がん医療従事者研修会

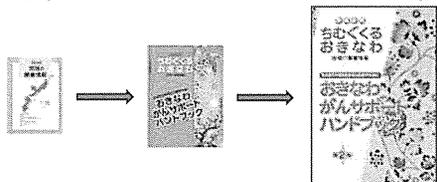
テーマ:「緩和ケア:病院から地域へ」

座長: 県立広島病院 緩和ケア科主任部長 本家 好文

- (1)「臨床腫瘍科における在宅緩和ケアへの課題」
講師: 県立広島病院 臨床腫瘍科 主任部長 篠崎 勝則
- (2)「地域における緩和ケア病棟の役割」
講師: 県立広島病院 緩和ケア科 部長 岡崎 正典
- (3)「緩和ケア領域における地域連携・現状と今後の課題」
講師: 県立広島病院 地域連携科 主任 佐々木涼子

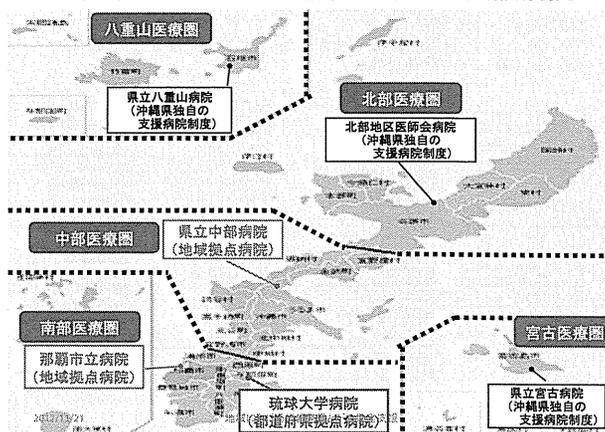
がん臨床研究推進事業 研修会
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて2012
地域における情報発信とがん患者支援

地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」 『おきなわがんサポートハンドブック第2版』

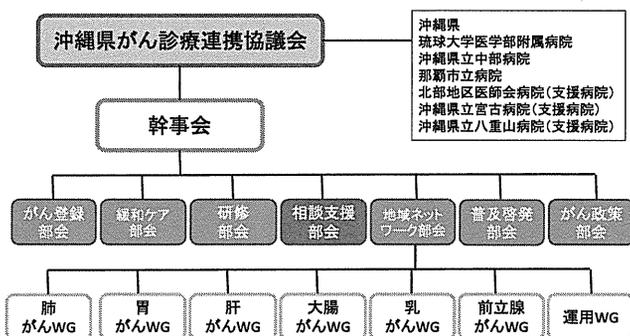


琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人

沖縄県のがん診療連携拠点病院と支援病院



沖縄県がん診療連携協議会組織図



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

3

沖縄県がん診療連携協議会委員

拠点病院 (10名)	地域拠点病院・支援病院 (12名)	沖縄県および各種団体 (6名)	患者委員および有識者委員 (6名)
病院長	地域拠点病院長	県政参与(副知事相当)	患者関係委員若干名
副病院長	同副院長から1名	県福祉保健部長	(1) 患者
前病院長(医学部長)	同部長から1名	医師会長	(2) 患者家族
看護部長	支援病院長	歯科医師会長	(3) 患者遺族
薬剤部長	同副院長・部長から1名	薬剤師会長	有識者 若干名
医療福祉支援センター長		看護協会長	(1) がん対策推進協議会 会長代理
病理部長			(2) 医療系シンクタンク理事
歯科口腔外科科長			(3) 地元新聞社記者
事務部長			
がんセンター長			



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

4

「地域の療養情報」沖縄県版(第1版) 「おきなわがんサポートハンドブック」

- ・ 沖縄県内の治療や療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報をとりまとめた冊子
- ・ 沖縄県・沖縄県がん診療連携協議会・琉球大学医学部附属病院がんセンターの三者が共同で2011年3月に2万部発刊
- ・ 同年4月に各患者会,自治体,福祉保健所,医療施設等への配布が完了
- ・ 同年5月から拠点病院を中心に,がん患者さんとその家族に担当医等から無料配布を開始
- ・ 患者必携「地域の療養情報」の発行,無料配布は国内初



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

5

地域の療養情報 第2版 概要

1. 目的:
がん患者とその家族に地域で療養生活を送るために必要となる情報の提供することにより,より質の高い生活を送ることができる環境を整備する。
2. 配布対象者: 全てのがん患者(治癒した方は除く)とその家族
* 第1版をお持ちの方にも配布する
* 一般の方には原則として配布しない
* 18-70歳のがん患者を主な読者と想定して編集
3. 規格: A5フルカラー, 68ページ, 2万部
4. 完成日: 2012年2月28日
5. 予算: 沖縄県がん医療連携体制推進事業300万円

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

6

地域の療養情報 第2版 製作者一覧
(沖縄県がん診療連携協議会 相談支援部会・R)

1	那覇市立病院総合相談センター長・MSW
2	沖縄県立中部病院病棟管理師長・看護師
3	国立病院機構沖縄病院経営企画室長
4	ハートライフ病院地域医療連携室・MSW
5	中頭病院医療相談室主任・MSW
6	沖縄県がん患者会連合会会長
7	NPO法人マインドケアおきなわ理事・臨床心理士
8	編集支援協力者
9	沖縄県福祉保健部医務課医療対策班
10	琉球大学病院がんセンター・MSW
11	琉球大学病院がんセンター・事務担当
12	琉球大学病院がんセンター長

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

7

地域の療養情報 第2版 編集上の特徴

<患者の病期や状態に沿った掲載順>

1. 最初:がん告知
 - ・心理的混乱,信頼できる情報の収集,セカンドオピニオン
2. 初期:通院・入院初期
 - ・主な関心は症状と治療法,お金(治療費,支援策)
3. 中期:入院
 - ・知識・心理的な面の相談(緩和ケア,患者会等)
4. 長期:長期入院・自宅等での治療
 - ・主な関心は訪問診療/介護,緩和ケア等

* がんの治療過程に沿ったライフコースマップを掲載することで,読み手が必要とする情報に最短でたどりつける様,工夫した

* 色遣い(やさしさ・やわらかさ・暖かさ・信頼感,親しみ・家族感)を考慮した

* 表紙は,県立首里高校染織デザイン科3年生の卒業制作である紅型(モチーフは「長命草(方言名:チョーミーグサ)」)の一部を提供していただいた

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

8

地域の療養情報 第2版 編集過程(1)

2011年 9月	第4回相談支援部会にて各コンテンツの修正・手直し。 沖縄県がん患者会連合会より,おきなわがんサポートハンドブック第1版評価アンケートを回収し,改訂版へ反映。
10月 (第1回編集委員会 20日14-18時)	「患者必携」第2版編集委員は相談支援部会委員を中心に編成した。沖縄県,各拠点病院担当者と協力し,内容の作成,更新作業を行った。
11月 (第2回 17日14-19時)	患者会・沖縄県がん診療協議会委員メーリングリストにて改訂版の内容についてご意見を収集した。 協議会ホームページにてパブリックコメントを募集した。(1~31日) 沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)へ,コンテンツおよび内容の見直しについて依頼した。 沖縄県がん診療協議会委員メーリングリストにて,内容の作成(案)について審議した。 第3回沖縄県がん診療連携協議会にて,委員より,内容の大幅変更が必要との意見が出て,全体の構成を再度検討することとなった。

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

9

地域の療養情報 第2版 編集過程(2)

2011年 12月 (第3回編集委員会 22日14-18時)	患者会及び沖縄県がん診療連携協議会からの意見を基に,改めて改訂作業を行った。 全60コンテンツについて,全ての説明文,各タイトルの確認作業を行った。協議後,担当者にて原稿の修正作業を行った(1回目)
2012年 1月 (第4回 7日10-21時) (第5回 20日14-19時)	7日 全60コンテンツ,全69ページについて,全ての説明文,各タイトルの確認作業を行った。協議後,担当者にて原稿の修正作業を行った(2回目) 沖縄県がん患者会連合会へ原稿について,最終意見を伺った 20日 全60コンテンツ,全69ページについて,全ての説明文,各タイトルの確認作業を行った。協議後,担当者にて原稿の修正作業を行った(3回目) 27日 レイアウト等原稿の調整を行った(4回目)
2月	印刷作業開始→完成納品(28日)
3月	第4回沖縄県がん診療連携協議会にて配布
5月	沖縄県より,県内各施設,各団体へ搬入
6月	配布開始

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

10

編集会議(計5回開催)

第1回

10月20日(木)14:00~18:00



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

11

第4回

1月7日(土)10:00~21:00



第2版の編集上の特性および改訂部分

- 1 患者の病期や状態に沿った掲載順に構成し直した
- 2 「がんの治療・療養の過程(ライフコース)マップ」を掲載することで,読み手が必要とする情報に最短でたどりつけるようにした
- 3 「がんの疑いがあるといわれてから,治療が終わるまでに確認しておくこと良いリスト」(患者用チェックリスト),「知って得する基礎知識」と題してコラム(4題)を追加した
全体をカラー化した。各章および中項目ごとに色分けインデックスを作成し,必要な情報にたどりつけよう工夫した。また,インデックスの上部に沖縄らしいイラスト(各章)を加えた
- 4 制度申請やサービスを利用する際の「覚えておくことよいこと」などのポイントを掲載することで,読み手にとって少しでも解りやすくなるようにした。結果的に14ページ減らした
- 5 沖縄県がん患者会連合会,沖縄県がん診療連携協議会委員,他の6つの部会委員からご意見をいただき,改定作業を行った
- 6 患者必携「がんになったら手にとるガイド」と併せて活用できるよう,関連する情報の参照ページを掲載した

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

12

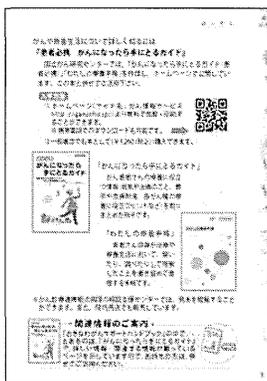
「地域の療養情報」 おきなわがんサポートハンドブック第2版



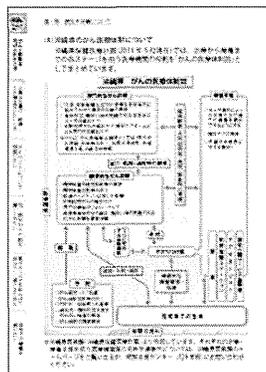
2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

13



がん医療体制図と地域連携クリニカルパス



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

14



医療計画における専門医療機関一覧

医療計画における専門医療機関

1. がん診療連携拠点病院

2. がん診療連携拠点病院(指定)

3. がん診療連携拠点病院(指定)

4. がん診療連携拠点病院(指定)

5. がん診療連携拠点病院(指定)

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

15

医療計画における専門医療機関

6. がん診療連携拠点病院(指定)

7. がん診療連携拠点病院(指定)

8. がん診療連携拠点病院(指定)

9. がん診療連携拠点病院(指定)

10. がん診療連携拠点病院(指定)

セカンドオピニオン先一覧

セカンドオピニオン先

1. がん診療連携拠点病院

2. がん診療連携拠点病院

3. がん診療連携拠点病院

4. がん診療連携拠点病院

5. がん診療連携拠点病院

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

16

セカンドオピニオン先

施設名	住所	電話番号
がん診療連携拠点病院	〒900-7916 沖縄県那覇市	098-937-1576
がん診療連携拠点病院	〒900-0001 沖縄県那覇市	098-937-1576

表紙デザインのモチーフ

- 「長命草」(和名:ポタンボウフウ)
- 「長命草(方言:チョーミーグサ)」とは、沖縄県八重山諸島のセリ科の植物。海岸の断崖やサンゴ石灰岩など、厳しい自然条件の中で自生する常緑多年草です。葉がポタンに似ていることから、和名をポタンボウフウといいます。
 - 沖縄では「1株食べると1日長生きする」として古くより病に効く薬草としても知られています。



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

17

ハンドブックの常備先と冊数

冊数	常備先	冊数	常備先
3,000冊	・琉球大学病院(県拠点病院)	5冊	・県歯科医師会 ・県看護協会
1,000冊	・那覇市立病院(地域拠点病院) ・県立中部病院(地域拠点病院)	1冊	・診療所等(390) ・介護老人保健施設(44) ・地域包括支援センター(41) ・ファミリーサポートセンター(14) ・年金事務所(6) ・居宅介護支援事業所(383) ・訪問看護ステーション(46) ・小学校(280) ・中学校(161) ・特別養護学校(16) ・高等学校(65) ・大学・短絡大学・高等専門学校(9) ・看護専門学校(5)
300冊	・北部地区医師会病院(支援病院) ・県立宮古病院(支援病院) ・県立八重山病院(支援病院)		
200冊	・専門のがん診療機関(18) (県保健医療計画選定施設) ・がん患者会連合会		
100冊	・福祉保健所(6)		
30冊	・患者会(22団体)		
20冊	・公立・私立図書館(46)		
10冊	・標準のがん診療機関(83) (県保健医療計画選定施設) ・調剤薬局(145) ・県医師会及び地区医師会(8) ・市町村(41自治体)		

2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

18

*残り3,880冊は沖縄県福祉保健部医療課保管



沖縄県がん診療連携協議会
ホームページからのダウンロード

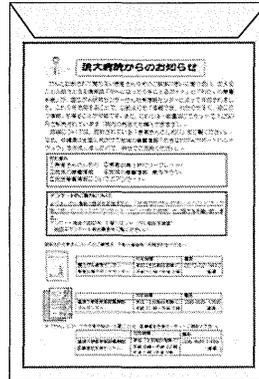


2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

15

配布用封筒



2012/11/21

地域における情報発信とがん患者支援

26

ポスター(A2版)



がん臨床研究推進事業 研修会
患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 2012
地域における情報発信とがん患者支援 アンケートまとめ

主 催:厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
 地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究
 班

共 催:公益財団法人 日本対がん協会

開催日:2012年11月21日(木)13時00分~16時30分

場 所:国立がん研究センター築地キャンパス内 国際研究交流会館 3階 国際会議場

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

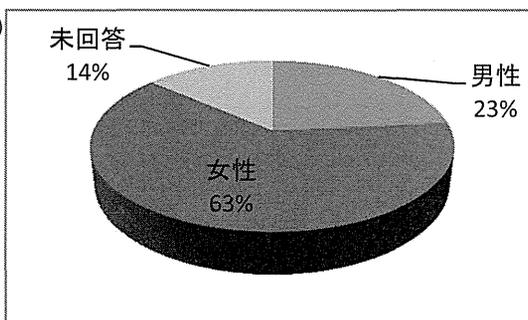
総参加人数:72人(スタッフ含む)

受講者:64人 アンケート回収:51

1) 性別

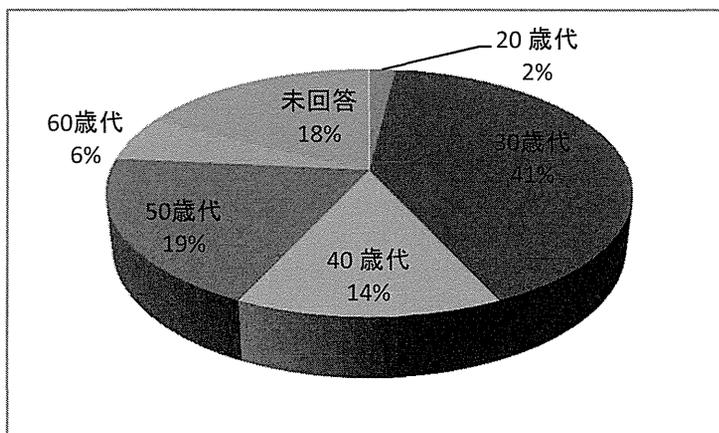
回答	男性	女性	未回答
人数(人)	12	32	7

(以下、記載ない場合はn=51として集計)



2) 年齢

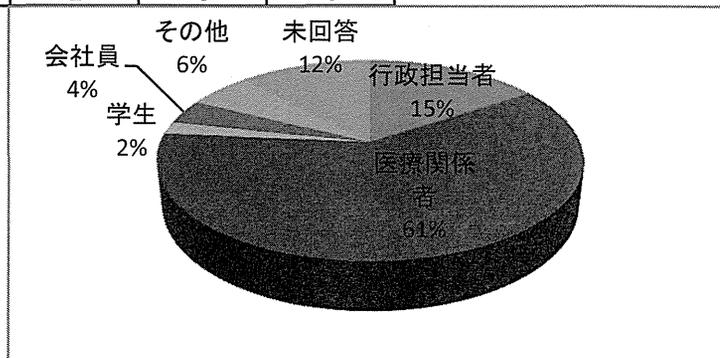
回答	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	未回答
人数(人)	1	21	7	10	3	9



3) 職種

回答	行政担当者	医療関係者	学生	会社員	その他	未回答
人数(人)	8	31	1	2	3	6

(その他の内訳) 相談支援センター事務職員
 病院職員
 NPO役員

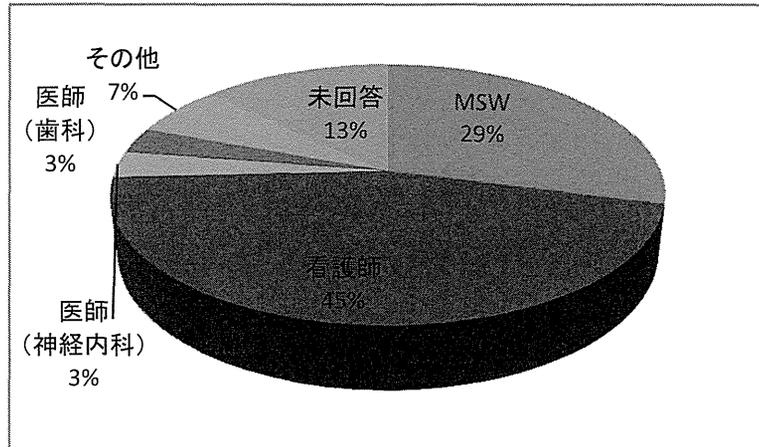


4) 医療職専門分野

回答	MSW	看護師	医師 (神経内科)	医師 (歯科)	その他	未回答
人数(人)	9	14	1	1	2	4

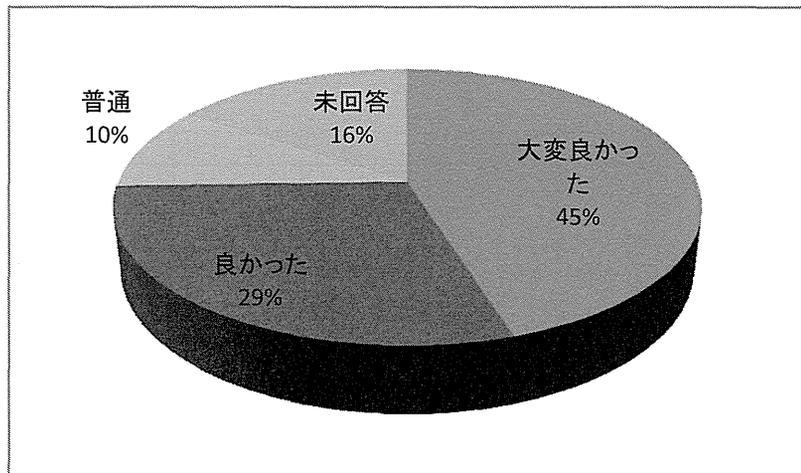
(前問より n=31)

(その他の内訳)記載欄なし



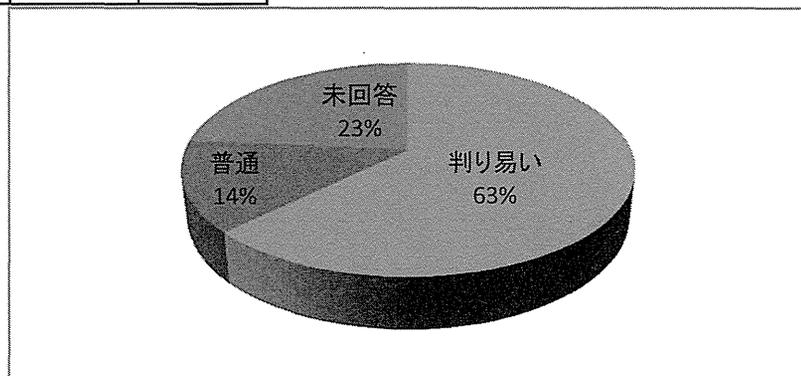
5) 全体的な印象

回答	大変良かった	良かった	普通	良くなかった	未回答
人数(人)	23	15	5	0	8



6) 内容の理解

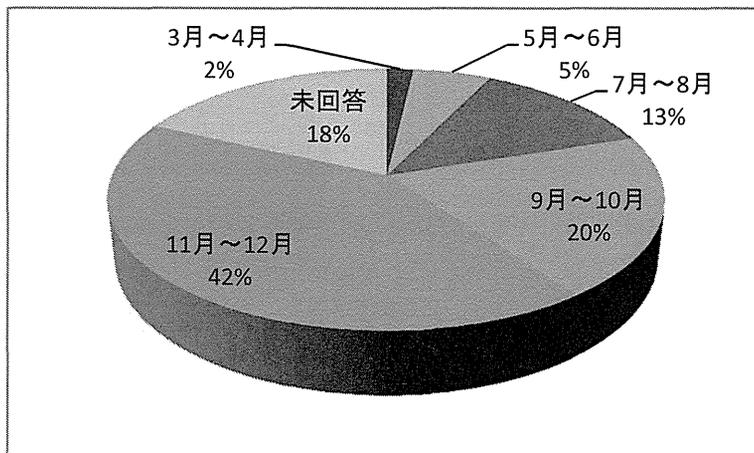
回答	判り易い	普通	難しかった	未回答
人数(人)	32	7	0	12



7) 希望開催時期

回答	1月～2月	3月～4月	5月～6月	7月～8月	9月～10月	11月～12月	未回答
人数(人)	0	1	3	7	11	23	10

(複数回答)



8) 希望開催地域

回答	東京	愛知	関西 (大阪含)	神戸	九州	未回答
人数(人)	15	1	5	1	1	28

(自由記述)
(複数回答)

9) 開催情報入手経路

回答	ポスター	ちらし	広報	インターネット	メール	人から	その他	未回答
人数(人)	3	15	8	5	11	5	5	6

(複数回答)

(人から聞いたの内訳) 上司

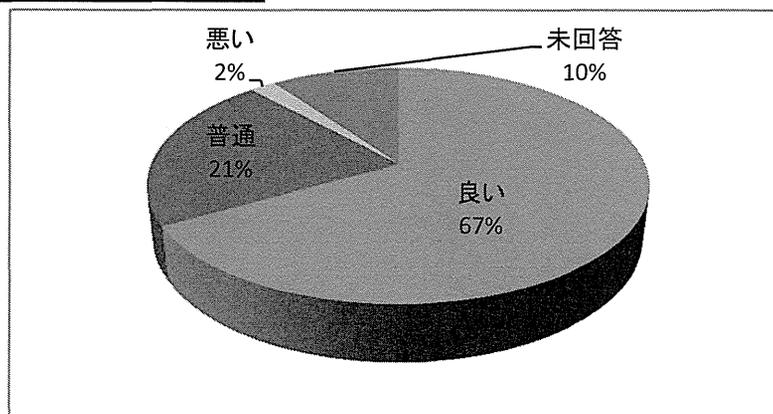
県庁職員 がん対策班

(その他の内訳) 県

職場の人
H-PAC
医師

10) 会場の印象(アクセス)

回答	良い	普通	悪い	未回答
人数(人)	34	11	1	5



11) 会場の印象(音響)

回答	良い	普通	悪い	未回答
人数(人)	29	12	2	8

12) 会場の印象(照明)

回答	良い	普通	悪い	未回答
人数(人)	28	14	1	8

13) 適切な演題数

回答	1演題	2演題	3演題	4演題	5演題	6演題	未回答
人数(人)	0	3	14	13	10	4	18

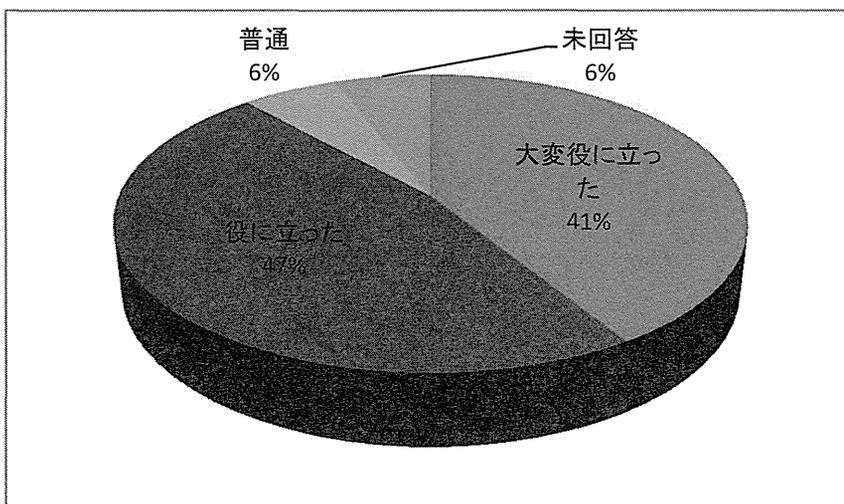
(自由記述)
(複数回答)

14) 適切な1演題あたりの時間

回答	30分以内	40分以内	50分以内	60分以内	60分以上	未回答
人数(人)	28	9	3	2	0	9

15) 内容の評価

回答	大変役に立った	役に立った	普通	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	未回答
人数(人)	21	24	3	0	0	3



16) 内容について [31;意見数]

<p>各地域ごとの取組みについて[13]</p> <p>各県の協議会等の仕組みが異なる中で、工夫されて作られていることが大変よくわかりました。全国の先駆的な取組みをうかがうことができ、大変参考になりました。各自治体の取組み事例や、課題を知ることができてよかったです。それぞれ地域の状況に密着して対応をとれているのが印象的だった。他の県、施設での取組みについて、具体的なことが理解できました。どのように患者・家族に必要な情報を提供していくかを考える一助になりました。都外の先駆的取組みと都としての方向性を学べた。各県の取組みが聞けてよかった。いろんな地域の方の話が聞けて、地域ごとにやり方が違うし、地域差があると改めて感じました。他施設や県の取組みが把握でき、今後の課題が明確になった。他県府の進捗状況、課題等比較して考えられる情報を得られることがよかった。各県の「地域の療養情報」の作成過程(どこが中心となって作成したか、費用負担はどうしたか)を詳しく聞くことができて、参考となった。参加することで、不明不安が明確になり、現場へフィードバックできると思う。自県では何も手がけてなく、他の問題に振り回されている状況である。次の部会で情報提供冊子作成を提案しようと思う。近い地域で集まってのディスカッションが大変勉強になった。</p>
<p>情報の内容と評価について[1]</p> <p>情報が本当にユーザーに求められているものなのかを考えさせられた</p>
<p>情報発信の方法について[5]</p> <p>相談支援事業に従事する医療者において、その業務の上でがんサポートブックが必要となっている点を再認識した。地域の療養支援を作成するプロセスがわかった。具体的に取られる。内容も参考になる。Ptに必要な情報をどのように伝えていくか、拠点病院としても、具体的に考えていく機会となりました。相談室だけでなく、Ptが手にとりやすい方法、必要な方に伝わる方法を考えていきたいと思えます。地域、行政との連携を深めていければと思いました。地域内でがん医療情報発信は必要だと再認識した。が、各事業所、拠点病院だけでは無理で、行政を巻き込み、予算を確保し、細やかに発信できることで住民が安心できると思う。「地域の療養情報」冊子作成以降の継続的な情報発信が課題です。</p>
<p>職種間の協議について[4]</p> <p>行政の積極的な関わりが必須であると感じた。行政がどこまで関わるのか、支援できるのか、取りかかりについてヒントが欲しくて参加した。冊子の作成だけでなく、その活用や患者視点の意見が聞けてとても参考になりました。参加者が行政だけでないのもよかった。行政との連携が急務だと感じました。行政の方の意見を聞くことができ、大変参考になった。自分の県の方が参加しておらず、残念でしたが・・・また、他院では事務の方も熱心なことを知り、驚きました。</p>
<p>感想[8]</p> <p>今後役に立ちます 同じ地区の方々とGWできたのがよかったです。もう少し時間がほしかったです。患者必携の活用の仕方について、情報発信の方法について、参考になった。地域ごとでグループディスカッションができたことはよかった。これから作成しようと考えており、取組み方、費用の対応、内容等参考になりました。他県の取組みがたくさん聞けてよかった。いろいろな話がきけてよかった。</p>

17) 新しく知った点や興味深く感じた点 [25]

地域情報の重要性[4]
各県で取り組まれている現状がよく分かりました 様々な状況に合わせた情報提供の仕方があること。どういう目的で冊子を作るかによって内容が異なってくる。 先駆的にやっておられる地域の情報誌は、改訂版を作られたりしてどんどんバージョンアップしているようで、参考になりました。 先行している県の話の取り組みについて勉強になった。自分も自分の立場でやっていきたいと思いを新たにしました。
沖縄県の例について[1]
”おきなわがんサポートハンドブック”を紹介していただいたが、作成までのプロセスを知り、大変なご苦勞があったと思われます。出来上がったものを手にできる県民の方々は安心や有効性を感じることができるのではと思います。
情報全般について[5]
情報の発信の仕方がいろいろ聞けて参考になった。 患者必携を活かしながらの情報提供をしていくべきだと思った。 患者や家族の求める情報を得やすい冊子を作ること(すぐに取り組めるものとして、リーフレットに集約し・・・後に患者必携を作る) あくまで”情報提供”といっても種類も方法も多くあるということが印象的だった。 患者・家族、さらに医療機関の視点で情報を考えていくこと
行政の関わりについて[5]
チーム医療の重要性・必要性が叫ばれる中、医療者と行政者の共同出席が本会の目的の療養情報作成には必須であり、そうした形の開催を望みます。医療者には、相談支援に従事するものだけでなく、病院の中で関係する医師も出席することに意義があると感じました。 県の理解と協力が欠かせないと思いました。クーポン取り入れる様にしてみたいと思います。 行政や医師会とのやり取りなど、地域の療養情報を発信するには、なかなか難しい事柄があるという点が がん診療連携協議会の相談支援部会の関わり大きさ分かった。先進県は医師が情報提供が積極的であり、当県においても働きかけが必要だと思った。 条例の必要性について、考えてなかったので勉強になった。まだまだ当県は遅れていると実感した。
キーパーソンの存在[4]
どこが主導で進めていくのか、どのような構成メンバーで検討していくのかを知ることができた。 がん相談支援センターの役割が多重化していることが感じられた やはり、行政を巻き込んでいく(予算の問題)、がんセンターの主導(Dr.を含め)、声掛けをし、まとめていく力をもっているかどうか、協力体制があるか？個々の力では難しいということが多いと改めて感じました。 当然ではあるが患者会との連携
予算関係について[1]
がん情報冊子について財源が拠点病院から拠出したりしているのでよかった
職種関係について[3]
現場の医療者の協力を得るのに苦勞されていること。例：折角作った冊子をDr.から渡してもらえず、病院に在庫が 沢山残ってしまっている、など 患者必携を活用したがん医療従事者研修について、医療者向け研修の教材となり得る 薬剤師との勉強会。そういう方々とも協働できればいいと思った。
その他[2]
各府県の取り組み。予算取りの難しさ。情報の活用評価のあり方。 冊子だけで終わるのではなく、自立、人につながるなど、次につなげるものにすべきだと気づかされた。

18) もっと詳しく知りたかった点や深く議論したかった点 [24]

地域ごとの冊子の作成について[5]
地域の医療情報とは、患者視点で作成すべきであるが、相談支援に従事する医療者の視点も忘れてはいけない。拠点病院に通院する患者には、医療相談室があり、それを利用した方が便利な筈である。今後の方向性について、前記の点から論議し、相談室から行政への要望といった形を全国的に推進すべきと思う。 先進県の情報だけではなく、取り組みができない、取り組もうとしたが問題があった等、困難事例についての情報が知りたい。 チームの役割などももう少し案の確定までに至った経緯を知りたい。 予算の工夫 冊子の着眼点、地域性の出し方について知りたかった。
患者に必要な情報について[4]
すでにある情報をどう必要なタイミングで、必要な人に届けるか、ということ 療養情報を作成して、それを「患者・家族にどのように提示し、どのように活用していただけるか」という課題があると感じます。多くの情報が盛り込まれていても、活用がうまくいかないことも多いのではないかと考えています。 どんな表現が患者にわかりにくく、どんな表現がわかりやすいと言われたのか、具体的に聞ければよかった。 本当に患者が必要としている情報が何かを、より具体的に知りたかった。
行政との関係について[5]
行政へのアプローチの仕方、巻き込み方 条例の作り方、行政や医師会の動かし方など、クリアすべきハードルへの対策方法 せつかくの機会。行政の声をもう少し聞けばよかった。 行政との連携。お金の面もあるので。 行政とHPの役割分担について
その他[10]
テーマは違うかもしれませんが、クリティカルパス、在宅医療とも関わりがあることから、地域への情報提供の好事例紹介を行ってほしい 評価の方法。使い方(配布方法など)。どのように患者の声を取り入れているのか。 広島県のがん医療ネットワークについて パスの運用でどのように院内外の理解を深め、活用できるのか。 講義はもちろん参考になりましたが、GWとその発表、質疑応答などを充実していけたらよかったのではないかと思います。 最後のグループワークは行政と病院と情報を作る実務者で話がかみあわなかった。時間がなさすぎたのか、職域が違いすぎたのか・・・個人的には病院の相談支援センターの人間と情報交換したかったです(地域は全く気にせず) グループディスカッションはもう少し長くてもよかった。 患者必携をどの位知っている人たちがいるのか。(医療職でも知らない人が多い環境が恥ずかしいのですが)各県、広報はどうしているのか。 話し合う時間がほしかった。

19) コラボレーション可能な点 [22]

病院間連携について[1]
医療機関との連携
広報や教育について[1]
情報はどのようなものであっても、医師からが効果的なので、医師からチラシでもよいので渡してもらおう。
行政の取り組みについて[4]
・県拠点病院の役割、県の役割を明確に位置づけていけたらよいが、国として決めて欲しい ・患者必携地域版を作るのは誰か？拠点かけんか市町村か？ 各県の行政からの出席がもっとあればよいと思う(県から1人は必須など) やはり、行政の方々を地域での医療、福祉、介護、患者会のメンバー等の協働が必要だと思います。 地域がん診療連携拠点HPに自分の地域の情報を集めさせて(当人としては大変なので承知してはいますが)、それを県が集約するほかないのかなと思います。どういった情報を集めるのかの決め方については取りまとめて県にやっていただきたいと思います。ちなみに、来年度については緩和ケアの医療資源とパスと研修会を県が予算をつけて、各拠点HPにやるようにという計画をしています(岐阜県)。
情報の質や評価について[4]
地域の医療情報とは、患者視点で作成すべきであるが、相談支援に従事する医療者の視点も忘れてはいけない。拠点病院に通院する患者には、医療相談室があり、それを利用した方が便利な筈である。今後の方向性について、前記の点から論議し、相談室から行政への要望といった形を全国的に推進すべきと思う。 情報を活かすFace to Face NWづくり

<p>本当に必要な時に使えるものを工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室、患者会の意見を十分に反映すること ・行政のかかわり(行政がまとめていく) <p>が必要かと思う。</p>
<p>複数地域の情報が必要という意見[2]</p> <p>東北地域として、広域の情報提供と検討も必要になると感じた。 県を越えて地域での情報の共有が必要である。</p>
<p>多職種・業種の連携について[8]</p> <p>多職種での協働については、それぞれの既存の組織(〇〇協議会)をうまく活用していく視点が必要と思います。 薬剤関係、プロパーさん、民間企業やNPOなども協業可能性があると思います。 行政、患者会、相談支援センター相談員、多職種(看護協会、医師会、薬剤師会) 地域の他職種と検討する場を作る。そこでの情報の共有が効果的と思う。 職種によって、考え方も異なりますので、在宅療養となると、介護福祉の方も含めて行えるとよい。例えば、がんの末期でも介護施設で過ごせるところはどこか?本当にできるのか?多くの方々が参加することで理解が広まる。 ”がんに関する”だけでなく、全国民が主役。行政が動かないと(お金の問題が大きいので)動ける部分を企業で動かすなどの情報を得て、参考となり、力強く働きかけをすべきと考えています。 行政、拠点病院、医師会、薬剤師会、包括支援センターとのコラボレーションが重要だと思いました。</p>
<p>その他[2]</p> <p>県で、地区で、HPで、どの単位で作った方がよいのか考える機会となりました。HPで作ったり、市町村で作っている方がいれば、話を聞いてみたいと思いました。 とにかく話すことではないでしょうか。</p>

20) ご意見・ご要望 [21]

<p>内容に対する意見[8]</p> <p>これからどうやって自分の県で展開させていくか考えるのに、とても参考になる良い研修会でした。ありがとうございました。</p> <p>各都道府県、行政担当者も一緒に参加して欲しい。現場のHPが困っていることを吸い上げる場にもなって欲しいと思います。</p> <p>熱い思いで関わっていることが感じられて、モチベーションがUPしました。内容が「がん」だけに限られる情報ではないなと思いました。もちろんがん特有な部分はあると思いますが、大変参考になりました。モチベーションが上がりました。次回も参加したいです。</p> <p>これから取り組むべき課題なので、大変参考になりました。盛りだくさんがよいというわけではないということを改めて感じました。</p> <p>個人的にはこれからの自分の病院における情報発信に対しての考察への刺激を受けるよい機会になりました。他県や他の職種の状況がわかって、大変参考になりました。</p> <p>市レベルの療養情報を作成したいと考えていますが、市の窓口で置いたり、市民に配布するとなると、もう少し個別具体的な情報を記したほうがいいのか、という印象を持ちました。</p>
<p>グループワークに対する意見[4]</p> <p>Round Discussion形式も良いかもしれない。 地域別のグループワークはとてもよかった。顔の見える関係になったし、話し合いも地域性が出た。 グループワークで他の地域での活動内容等知ることができた。 もう少しワークショップの時間がほしかった</p>
<p>主催者に対する要望、意見、お礼[6]</p> <p>参考になりました、今後開催に際して、出張扱いになるような取り組みを期待します(今回は県が半額、病院が半額負担でした)</p> <p>今後とも情報共有させていただければ幸いです。参加証書うれしかったです 時間が定刻に終わらなかったのが残念でした。前半のパネリストの話をもっとゆっくりお聞きしたかったです。 各地域から先生やいろいろな方が来て話をされると、最初の案内(パンフレット)で思い、応募した。事例報告をもっと詳しく聞きたかったです。 大変有意義でした。もっと参加者(拠点HP)があればよいですね</p>

がん臨床研究推進事業 研修会

患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 2012

地域における情報発信とがん患者支援

厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)

地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究

研究班に関するお問い合わせ

国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部

渡邊 清高 kiwatana@ncc.go.jp

東京都中央区築地 5-1-1

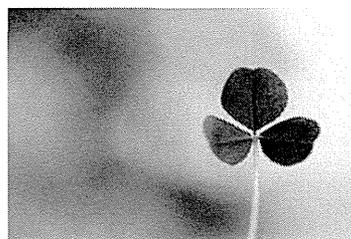
TEL:03-3542-2511(5919)

FAX:03-3547-8577



患者必携

がんと向き合うために (三重県の療養情報)



はじめに

『がんと向き合うために』は、三重県で過ごされているがん患者さんにとって必要ながんに関する情報をとりまとめた冊子です。

がんと診断された後、心や体に様々な変化が現れ不安や悩みを抱えることがあります。県内のがん患者さんや家族の方に、お住まいの地域の相談窓口や医療機関、医療費、就労などの情報をお届けし、よりよい療養生活を送っていただけることを目指して作成しました。

この冊子をご活用いただき、自分らしいがんと向き合い方を見つけていただけるよう願っています

疑問や質問がありましたら、どうぞ遠慮なく三重県がん相談支援センター（TEL：059-223-1616）にお尋ねください。

目次

はじめに

1、がんと診断されたら

- 1) がんと診断されたら
- 2) がんの告知
- 3) セカンドオピニオン
- 4) 新 医者にかかる 10 箇条

2、三重県のがん医療機関

- 1) 県内のがん診療連携拠点病院
- 2) 県内のがん診療連携推進病院
- 3) 県内の緩和ケア病棟のある病院
- 4) 三重県医療安心ネットワークについて

3、三重県のがん相談窓口

- 1) 県内のがん相談支援センター
- 2) 市町のがん相談窓口

4、自宅で療養するには

- 1) 在宅療養についての相談窓口
- 2) 在宅療養支援診療所について
- 3) 訪問看護について
- 4) 介護保険の手続き及び利用について
- 5) 障害福祉サービスについて

5、医療費・生活費

- 1) 医療費が高額になったときに
- 2) 医療費・療養費の貸付制度について
- 3) 医療費の助成について
- 4) 生活費について
- 5) 障害を患った方への制度について

6、がんと仕事

- 1) 仕事を続けるためには
- 2) 就労支援相談窓口

7、がん患者会とがんサロン

- 1) 県内のがん患者会
- 2) 県内のがん患者サロン
- 3) グリーフケアサロン

8、療養に役立つ情報を探す

9、療養に役立つサービスを探す

10、市町の窓口、問合せ先など

- 1) 県、保健福祉事務所（保健所）
- 2) 市町のがんに関する総合窓口
- 3) 市町の社会福祉協議会
- 4) 県内の年金事務所
- 5) 県内の税務署
- 6) 県内のハローワーク
- 7) 市町の介護保険の窓口
- 8) 市町の福祉事務所

1. がんと診断されたら・・・



1) がんと診断されたら

ご自身の病気についての情報をまとめておくと、落ち着いた気持ちで治療について考えられるようになります。

① 自分にとって必要な情報を集めましょう

- * 自分の病気や、検査、治療法、療養生活などについての情報を集めることは、不安が軽減されたり、色々な選択肢から納得しながら1つ1つ決定していくためにも、非常に大切です。
- * 主治医や看護師など医療従事者は、あなたに最も適した情報を提供してくれる存在です。
- * 5年生存率や治癒率などの数字に、あまりとらわれないように注意しましょう。
- * インターネットは情報収集には便利なものですが、発信元や手に入れた情報が信頼できるかどうか考えてみましょう。

○ 推奨できるインターネット上のサイトについて

8、療養に役立つ情報を探す

P21 参照

② 主治医に聞いておきたいこと

- * 何という、がんですか？
- * その診断はもう確定しているのでしょうか？それともまだ疑いがある段階なのでしょうか？
- * がんは、どこにあって、どの程度広がっていますか？
- * 私が受けることのできる治療は、どのようなものがありますか？
- * どのような治療を勧めますか？また、その治療を勧める理由を教えてください。
- * 治療期間は、どのくらいかかりますか？
- * 今まで通りの生活を続けることはできますか？
- * 普段の生活や食事のことで、気をつけておくことはありますか？